

1945年8月6日、広島で被爆したイエズス会外国人神父・修道士（作成・中国新聞社）

| No. | 名前(name) | 出身 | 叙階 | 被爆時の年齢 | 被爆場所・状況 | その後 | 死亡年 |
|-----|---|-------------------------|----------------------------|--------|---|--|-------------------------|
| 1 | フーゴ・ラサール (Hugo Lassalle)  | ドイツ | 1927年司祭 35年日本 宣教上長 | 46歳 | 朝のミサを終え、爆心地から約1.2kmの職町教会司祭館自室。左足に裂傷を負うも敷地内に住む保母2人や伝道師妻子を救出し、泉邸（現縮景園）へ避難。安佐郡祇園町（広島市安佐南区）の長束修練院から救援に入った神父・修道士によって担架で運ばれる。 | 1946年8月、イタリア・ローマでのイエズス会総会出席のため経由した米国で被爆の実態を証言、欧州や南米を約1年半近く回る。ブラジルでは「日本戦勝」を信じた日本移民集団地を訪ね敗戦を説く。48年日本国籍、愛宮真備と改名。職町・世界平和記念聖堂の建設を提唱し54年に献堂（2006年国の重要文化財指定）。68年広島市名誉市民。69年東京・秋川渓谷に禅道場「神冥窟」を設立。禅を晩年まで実践指導し世界に広める。 | 1990年再統一直前の西ドイツで死去、91歳。 |
| 2 | ウィルヘルム・クラインゾルゲ (Wilhelm Kleinsorge)  | ドイツ | 34年司祭 | 38歳 | 司祭館。教会の日本人男性秘書を背負い脱出する。消耗して歩けず、近隣の母子に付き添い泉邸で夜を明かし、長束へ運ばれる。 | 急性放射線障害で45年9月、東京・国際聖母病院に入院し、原爆の威力を調べる米軍マンハッタン管区調査団の医学者が面談。翌年広島を訪れたジョン・ハーシーが著す「ヒロシマ」の取材に協力し登場6人の1人に。48年日本国籍、高倉誠と改名。入退院を繰り返しながら三篠教会（広島市）や向原教会（現安芸高田市）で司牧を続けた。 | 77年 広島市祇園町で死去、71歳。 |
| 3 | フーベルト・チースリク (Hubert Cieslik)  | ドイツ | 43年司祭 | 31歳 | 司祭館自室。近隣の倒壊家屋から女性を救出し、泉邸で火事嵐や「黒い雨」にも遭う。担架に乗せられたラサール、シッファー神父に付き添い長束まで歩く。急性放射線障害で9月、神戸で治療を受ける。 | 45年12月、ラサール神父と職町教会跡に戻り、バラック3畳を聖堂兼寝室などに充て、クリスマスのミサを行う。50年まで同教会で司牧。東京・聖三木修道院院長や、「聖心の使徒」編集長を務める。自身の被爆体験を日本語で著した「破壊の日」を同誌68年7・8月合併号に掲載。日本キリシタン史を研究し、「芸備キリシタン史料」を同年に刊行。 | 98年 東京で死去、84歳。 |
| 4 | フーベルト・シッファー (Hubert Schiffer)  | ドイツ | 43年司祭 | 30歳 | 司祭館図書室。本棚ガラス戸の破片で血まみれに。ラサール神父と担架で長束へ運ばれる。 | 体調を回復後に米国で修練を積み、経済学も学ぶ。上智大で教え、再び米国に渡りニューオーリンズの大学で教壇に立つ。80年西ドイツへ帰国し、フランクフルト・聖イグナチオレジデンスで司牧。 | 82年、 西ドイツで死去、66歳。 |
| 5 | ペドロ・アルベ (Pedro Arrupe)  | スペイン | 36年司祭 42年長束修練 院長・修練長 | 37歳 | 爆心地から北西約4.5km、祇園町の長束修練院自室。イエズス会に入る前にマドリッド大で医学を専攻した経験を生かし、避難者らを受け入れ救援を率いる。 | 50年6月ローマへ出発、米国や中南米でも講演を行い、51年8月に戻る。54年日本管区長に任命され訪欧。日本での宣教使命や、会創設の上智大の発展、広島学院の56年開校計画も説く。58年日本管区昇格により初代管区長。65～83年イエズス会総長。 | 91年 ローマで死去、83歳。 |
| 6 | ポール・ネーベル (Paul Nebel)  | 生誕時は ドイツ領 (現フランス) | 27年司祭 大戦中は長束 修練院副院長 | 49歳 | 長束修練院。避難者への食糧調達を担う。 | 46年島根・津和野教会に転任し、マリア堂を完成させるなど27年間宣教を続ける。62年日本国籍、長崎の殉教者名にちなみ岡崎裕次郎と改名。健康を害して73年帰郷。 | 76年 西ドイツで死去、80歳。 |
| 7 | ヨハネス・ジューメス (Johannes Siemes)  | ドイツ | 37年司祭 | 37歳 | 長束修練院自室。午後4時ごろ、ラサール神父らが泉邸にいるとの連絡を受け救援に。翌7日も市内へ入る。東京在住の神父・修道士らと45年初め疎開していた。 | 被爆1カ月後に体験記を書き、米軍マンハッタン管区調査団が全文を英語翻訳し46年6月提出の報告書に「目撃者記述」と添付。抄録が米誌タイム同2月11号に、「ヒロシマからの報告」としてイエズス会報誌ジェズイット・ミッションズ同3月号に掲載。上智大で哲学を教え名誉教授。 | 83年 神奈川県で死去、75歳。 |
| 8 | フリードリヒ・タッペ (Friedrich Tappe)  | ドイツ | 37年司祭 | 36歳 | 長束修練院。救援に入り爆心地から約1.5kmの三篠橋近くで倒壊家屋から女兒2人を救出する。 | 47年開校の東京カトリック神学院で倫理神学を教える。 | 58年 西ドイツで死去、49歳。 |
| 9 | ラウレンツ・クリヤー (Laurenz Kruer)  | ドイツ | 44年司祭 | 32歳 | 長束修練院。救援のため入市。 | 50～55年イエズス会日本語学校長。職町教会、東京・聖イグナチオ教会などで司牧。 | 2002年 東京で死去、88歳。 |
| 10 | ヨハネス・シュトルテ (Johannes Stolte)  | ドイツ | 43年司祭 | 31歳 | 長束修練院。道端で倒れていた重傷者らを祇園町の臨時救護所へ運ぶ。 | イエズス会設立の神戸・六甲学院から、神奈川・栄光学園で長年教える。ハンス・シュトルテ名で「丹沢夜話」を著す。 | 07年 東京で死去、93歳。 |
| 11 | ロレンツ・ラウレス (Lorenz Laures)  | ドイツ | 44年司祭 | 30歳 | 長束修練院。ジューメス神父らと救援に向かうが米国人一団とみられ、抜刀した将校の腕にしがみついたドイツ人だと説明。 | 49年の祇園教会設立に尽力し、修練を米国で積み戻った後も同教会で司牧を長年続けた。74年から上智大でドイツ語を教える。 | 1993年 東京で死去、77歳。 |
| 12 | ヘルムート・エルリンハーゲン (Helmut Erlinghagen)  | ドイツ | 45年7月司祭 | 29歳 | 長束修練院。シュトルテ神父と道端で倒れていた重傷者を祇園町内の臨時救護所へ運び、救援のため市内へ。 | 上智大などで教えた後、西ドイツへ帰国。原爆体験記をドイツ語で残す。 | 87年 西ドイツで死去、72歳。 |
| 13 | クラウス・ルーメル (Klaus Luhmer)  | ドイツ | 45年7月司祭 | 28歳 | 長束修練院玄関前。6日夕市内へ入り、タッペ神父と三篠橋近くで女兒を救出し、7日も救援に出る。 | 米デトロイト大で教育学を学び、53年から上智大で教え名誉教授。87～92年上智学院理事長。終戦後に広島県北・帝釈峠への移動を命じられ「8月6日」を日本語でも書いた日記が原爆資料館で2019年4月から常設展示される。 | 2011年 東京で死去、94歳。 |
| 14 | 陳(日本名は陳原)ソンマン (Nobuhara Petrus Seiman /Chin Sungman) | 朝鮮 | 修道士 | 29歳 | 長束修練院。7日は、泉邸にいたクラインゾルゲ神父に付き添い長束まで歩く。 | 49年司祭となり、欧州で神学を研さんして55年韓国へ戻る。アルベ日本管区長が訪れた母国で宣教や朝鮮戦争被災者の救済に取り組む。 | 1985年 韓国京畿道で死去、70歳。 |
| 15 | 金(日本名は金城)太寛 (Kim Tegwan /Kinjo Tobias Taikan) | 朝鮮 | 修道士 | 26歳 | 長束修練院。救援に当たった夜、ラサール神父は担架ごと溝に落ち、荷車を見つけて戻る。一行は7日午前4時半ごろ長束に到着。 | 50年司祭、ベルギーや米国で学び、55年に戻った韓国でイエズス会による大学創設にも努める。 | 90年 ソウルで死去、71歳。 |
| 16 | ペーター・コップ (Peter Kopp) | ドイツ | 36年司祭 | 33歳 | 爆心地から約2.3km、朝のミサを終えた楠木町（西区）の三篠修道院。煉獄援助修道会のシスター7人と長束へ向かう。 | 夕刊ひろしま46年8月3日付「外人宣教師のみたヒロシマ復興」の見出し記事でこう答えていた。「生業のほとんどがプロカー、闇商人、飲食業などの事実もまた広島（略）一番先にできた大きな建築物が映画館であったのも苦笑させられる」 | 2002年 東京で死去、90歳。 |

日本学術振興会特別研究員・四條知恵さんの調査、上智大名誉教授フランツ・モール神父、同マイケル・ミルワードさん、イエズス会広島共同院長・塩谷恵策神父らの協力、「日本のイエズス会史」（1984年刊・非売品）などを基に作成。「イエズス会ドイツ管区日本宣教地名簿1945年」の名前の片仮名表記は、日本管区2008年編「100年の記憶」に沿った。顔写真の提供は、2は篠原英子さん（東京）、3は山口裕子さん（広島）、5は青葉憲明さん（同）、7は上智大史資料室、4、11、12、13はモール神父。